sanwa company

Solid Flooring

無垢フローリング取扱説明書

無垢フローリングは、空気中の水分を吸収または放出する働きがあります。その結果として「膨張」「収縮」などを生じ、施工状況によっては不都合を引き起こす場合があります。より良く仕上げるために、右記の要領にそって施工してください。施工の際、無塗装・オイル塗装のフローリングは養生テープを直接貼らないでください。なお当製品は内装用です。外装には使用しないでください。

1 施工前に確認

無垢材の性質上、膨張・収縮を防ぐために開梱した状態で必ず1週間以上放置し、十分に施工現場環境になじませてください。

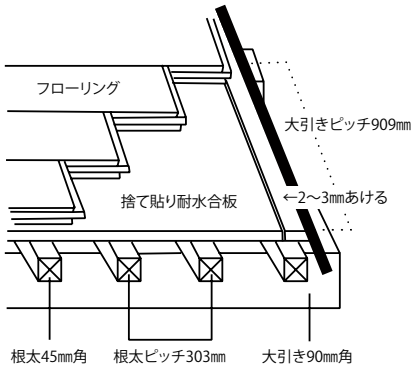
床下換気は十分ですか？
（建築基準法：外周部の基礎には、換気面積300cm²以上の換気口を5mごとに設置）

床下の換気が十分でない場合、
施工後に「暴れ」「突き上げ」「床鳴り」が発生する恐れがあります。

2 仮並べ

天然木ですので、貼り始める前に仮並べをし、色柄のバランスをとって施工してください。
（極端に色・柄・サイズの違ったものがありましたら、施工前に当社まですみやかにご連絡ください）

3 下地施工



●大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。（アピトン材は42mm角以上）

●大引き間隔は3尺、根太は1尺（303mm）とし、レベル（水平）を出して施工してください。

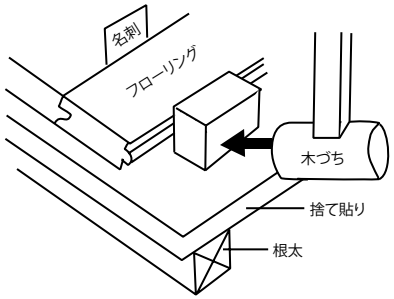
●必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。

●捨て貼り合板の間は2〜3mm空けて施工してください。

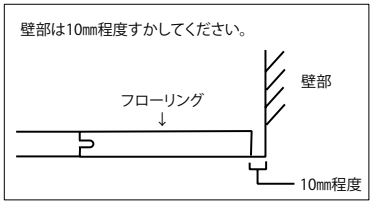
●床下の湿気が多い場合は、0.1mm厚以上の防水シートを根太と捨て貼り合板の間に敷きこんで施工してください。

●フローリングは根太と直交するように施工し、長手方向のジョイントは、根太上にくるようにしてください。

4 クリアランスの方法

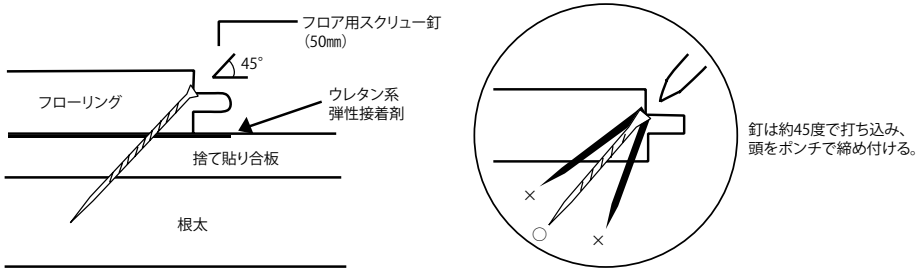


実を強く叩きこみすぎると、無垢材の性質上、膨張時に反りが発生する場合があります。必ず名刺1〜2枚分程度（0.2〜0.4mm）の隙間を設けてください。



5 固定方法

●フローリングの雄実部の釘打ち個所にあらかじめ直径2㎜程度の導き穴を開けてください。
●施工は糊釘併用で行い、釘はフロア用のスクリュー釘（50㎜）、接着剤はウレタン系弾性接着剤を使用してください。また釘打ち後、ポンチで締め付けてください。



6 養生

●施工完了後に、表面のゴミやほこりを取り除いて下さい。特に砂や小石があると傷の原因となります。また、床材に付着した接着剤は綺麗に拭き取って下さい。硬化後では取れなくなります。
●清掃の後、表面保護のために養生ボードにてフローリングを隙間なく覆ってください。わずかな隙間があると、日射により無垢材の色に変化が起こり、養生が施されている箇所との色差になります。糊残りや、木目に石膏ボードの粉が入るなどトラブルの原因となります。
●養生テープを直接無垢フローリング・オイル塗装フローリングに貼らないでください。粘着テープによって塗装粘着剤が材に付着し汚れや変色の原因となる場合があります。
●養生ボードは、壁面に養生テープで固定するようにしてください。

7 コンクリート下地の場合

●モルタルは含水率が10%以下になるよう、十分乾燥させて下さい。不陸（凹凸）が無いように平滑な仕上げにして下さい。
●ボンドとコンクリート釘で12㎜厚以上の一類耐水合板を捨て張りします。あとは木質下地と同様の施工をします。
●無垢フローリングは若干の伸縮をしますので、施工では締めすぎやカチコミはしないようにお願いします。また、施工後の養生シートで高湿度の状態が続きますと無垢フローリングは膨張して突き上げの原因になります。現場での通気・換気に十分ご配慮下さい。

※施工方法はあくまでも一般的な事例を紹介しております。当社はこれに基づく設計・施工上の不備に対して一切の責任は負いかねますのでご了承下さい。また施工後の伸縮、反り、割れ、変色等の発生、及び諸条件による経年変化は天然木の性質上避けられません。これに関する、苦情、返品、交換等はご容赦いただきますようお願い申し上げます。

8 メンテナンスについて

《日常のお手入れ》

●化学雑巾もしくは乾いた柔らかい布のから拭きで十分です。どうしても汚れが気になる場合は、十分に固く絞った濡れ雑巾で拭いてください。
●UV・ウレタン塗装の商品はワックスがけの必要はありません。土やホコリが上がり、塗装面に細かい擦り傷がついた場合は、UVウレタン塗装用のメンテ用品、ワックス掛けを検討してください。
●オイル塗装の商品にワックス掛けを行う場合はオイル塗装専用のものを使用し、初めに目立たないところで馴染み具合を確認してからお使いください。ウレタン塗装用のワックスを使用すると、毛羽立ちやシミの原因になりますので使用しないでください。
●無塗装品にメンテナンス用品を使用したり、直接ワックスを塗ると、床が水分を吸ってザラつき、毛羽立ちやムラの原因のなりますので使用しないでください。

《汚れたときのお手入れ》

汚れの種類によって処理方法が若干異なりますが、最初にから拭きで除去を試み、
それでも落ちない時は下記のようにお手入れ願います。

●パターンA ・醤油 ・ソース ・マヨネーズ	台所の中性洗剤を溶かしたぬるま湯でよく絞った雑巾で拭いてください。 汚れが落ちたら、乾いた柔らかい布でから拭きしてください。	▶ さらに汚れが落ちにくい場合は、家庭用洗剤の原液を付けた雑巾で拭いてください。汚れが落ちたら乾いた柔らかい布でから拭きをしてください。
●パターンB ・ケチャップ ・クレヨン ・水性フェルトペン	布にベンジンをつけ手早く拭いてください。汚れが落ちたら乾いた柔らかい布でから拭きしてください。	▶ さらに汚れが落ちにくい場合も繰り返しベンジンをつけた布で拭きます。この時一度に落とそうとせず、時間を置いてから行います。汚れが落ちたら乾いた柔らかい布でから拭きをしてください。
●パターンC ・油性フェルトペン	パターンBと同様に、布にベンジンをつけ、手早く拭いてください。汚れが落ちたら乾いた柔らかい布で、から拭きしてください。汚した直後であれば、消しゴムで落ちる場合もあります。	▶ さらに汚れが落ちにくい場合も繰り返し処理しますが、完全に落ちない場合が多いため、特に油性フェルトペンをつけないように注意してください。

9 お客様へ　必ずご使用前にお読みください

《雨濡れ・水濡れ》

雨濡れ水濡れは、製品のシミ・汚染の原因となりますので、すみやかに拭き取ってください。

《熱》

通常の木質床材にはホットカーペット・温風ヒーター・ストーブ等の熱が直接あたるような使い方は、目隙・表面割れを起こしますので避けてください。これらを使用される場合は、断熱性の高いマットを敷いてご使用ください。
※断熱マットは家電小売店でお求めください。

《色違い・やけ》

天然銘木のため、1枚1枚色柄が異なります。また印刷物との間に隔たりを生じることもありますので、ご了承ください。木材は光線中の可視光線成分や紫外線成分を吸収して、自らも変色していきます。その結果として光の当たった部分とそうでない部分で色が異なる状態が生じることがありますので、カーテン等でさえぎるなどしてできるだけ直射日光にさらさぬようご配慮お願いいたします。

《キャスター・重量物》

机・テーブルや椅子の脚にはゴムキャップをかぶせてご使用ください。ピアノなどの重量物は敷き板を介して置いてください。荷重のかかった状態でキャスター付きの椅子やワゴンを動かすと大きなダメージを受けやすいのでカーペットを部分敷きして表面を保護してご使用ください。

●●● **sanwa**company

株式会社サンワカンパニー / **SANWA COMPANY LTD.**

● お客様相談センター 受付時間：土・日・祝日を除く　9：00～18：00　TEL：0120-468-838　FAX：0120-382-096
● 東京ショールーム　受付時間：年中無休（年末年始・夏季休暇は除く）10：00～18：00　TEL：03-5775-4763　FAX：03-5775-4764
● 大阪ショールーム　受付時間：年中無休（年末年始・夏季休暇は除く）11：00～19：00　TEL：06-6359-2930　FAX：06-6359-1395
● 名古屋ショールーム 受付時間：年中無休（年末年始・夏季休暇は除く）10：00～18：00　TEL：052-935-2217　FAX：052-935-2218